

<様式>

学 校 名	山形市立東小学校 山形市泉町19番31号 TEL 642-5259 FAX 633-9540	校 長	古原 靖子
		研究主任	佐藤 史恵
研 究 主 題	思考と対話を通して、問題を自分で解決する子どもの育成 ～ICTを効果的に活用して～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、令和元年度より「仲間と関わりながら、自らしを創る子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、教育活動を進めてきた。学校教育目標の具現化のために、めざす子どもの姿を「太陽の子」とし、下のような子どもの育ちを目指している。</p> <p>【かしこく】自分で考えて行動する・仲間と一緒に考える 【やさしく】仲間を思いやる・仲間と助け合う 【たくましく】進んで挑戦する・最後まで挑戦する</p> <p>東小の子どもたちが、未知なる課題や日頃の身近な問題に対して、じっくりと考え向き合い、仲間と心を通わせながら、自分たちで学びやくらしを創っていくことをめざしている。急激に変化する時代に直面するであろう子どもたちに、自分たちで学びを、くらしを、学校を創っていく力が必要であると考えている。</p> <p>そこで、研究主題を上記の「思考と対話を通して、問題を自分で解決する子どもの育成」とした。</p> <p>昨年度までの研究において、日々の授業を中心に、課題のあり方の追究、子どもたち同士の交流を工夫する実践を積み重ねている。また、情報教育推進校の委嘱を受け、各教科、教育活動の中でICTの可能性を探りながら、問題を解決しようとする子どもの姿をとらえてきた。学習者自身である子どもが、自分の成長に気付くようなふり返りや課題設定の仕方、日頃のくらしにおける様々な問題場面における関わり方については、課題が多く見られる。</p> <p>山形市情報教育推進校委嘱の2年目を迎え、ICTを効果的活用した授業改善を進めながら、教育活動全体を通して、自らしを創る源となる「かしこさ、やさしさ、たくましさ」を育てていきたいと考える。そして、東小の子どもたちが、仲間とよりよい関わりを構築し、自ら未知なる問題に立ち向かう姿を求めていきたい。</p>		
研 究 の	<p>本年度は、研究主題の実現に迫るために、次の3つを視点として研究を進めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>◇視点1◇ 子ども一人一人が問いをもち、見通しをもって主体的に課題解決に取り組むための手立ての追究</p><p>◇視点2◇ 子ども一人一人が自分の思いを表現し、互いに学び合い、尊重し合う学習や活動の展開の追究</p><p>◇視点3◇ 学びの過程に沿ったICTの効果的な活用、各教科での活用場面の展開の追究</p><p>◇視点を支えるもの◇ 子どもの育ちの土台となる学級・学年経営（学校全体で子どもを育てる） 育てたい資質・能力を明確にした教育活動の展開（学校・学年の取り組みの共有化）</p></div>		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">視 点</p>	<p><視点1について></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもが主体となって学びを追究することができる単元の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者自身である子どもの思いを出発点とした課題づくり ・育てたい資質・能力を明確にし、子どもの思考に沿った探究型の単元構成 ・各教科の見方や考え方を働かせた学習活動の展開、体験活動の効果的な位置付け ・見通しをもって安心して学ぶことのできる1単元、1単位時間の学びの基本過程の共通化 2) 学びを自覚し、次の目標をもつことのできるまとめ、ふり返りの積み重ね <ul style="list-style-type: none"> ・意図的、効果的なふり返りの場の設定 ・ふり返りの視点や活用の仕方の工夫 ・自分の成長やよさに目を向けるふり返りの蓄積や価値づけ <p><視点2について></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習内容や学習者の特徴を生かした表現形式の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート、タブレット、音声言語、書字等いろいろな媒体・形式の中から選択した表現 ・思考ツールの活用や思考をOutputする場や時間の保障 2) 効果的な交流場面設定の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・自分ごととして聞く力、相手意識をもった発表の仕方の継続 ・1時間のゴールの姿をイメージできる目的を確認した学び合いの場の設定（やるべきことが分かる） ・分ける、比べる、つなげる、広げる等、またペア・グループ・全体等学び合いの進め方の工夫 ・教師の出と待ちを意識したコーディネートのあるあり方 <p><視点3について></p> <p>ICTの効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的なICT機器、タブレットの活用を進め、課題設定 自分の考え 学び合い ふり返り 等の学びの過程に沿って活用を工夫していく。 ・ICTを活用した学習活動の展開を行い、予想される思考の流れを活かしたコーディネートの工夫を行う。 ・タブレットを活用した交流活動や言語活動の設定をする。 ・ICTによる、効果的な情報蓄積・管理方法を検討し、誰でも活用できるようにしていく。 <p><視点を支えるもの について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解につとめ、目の前の子どもの姿を受け止めていく。 ・学年で子どもを育てる、学校で子どもを育てる視点に立ち、情報の共有を継続する。 ・教育活動全体を通して、「かしこく やさしく たくましく」の子どもの姿をめざし、子どもの育ちを実現していく。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研 究 の</p>	<p>(1) 子ども理解の充実・教職員間の合意形成期間を設け、教育活動全体を通して子どもの姿をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学期は、子ども理解、子どもと授業者・子ども同士の関係づくりを重点とした研修を進める。 ○子ども理解につながる研修を年間を通して実施し、子どもの見方を鍛え、子どもたちが仲間とよりよい関係を構築できるようにする。 ○各自がとらえた子どもの姿を共有したり、日頃の授業・指導で困っていることを話し合っ支援策を考えたりする場を設定し、育てたい資質・能力や手立てを再考した上で、職員が一貫した指導を行っていく。 <p>(2) 東小の子どもたちにつけたい資質・能力を明らかにし、授業実践、教育活動の展開を積み重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校行事などの学校全体の取り組み、学年の取り組み、各授業において、子どもの実態から育てたい資質・能力を明らかにし、めざす子どもの姿を共有していく。教職員全員で、教育の方向性を確かめ、授業づくりや学級づくり、支援の在り方や教師の意識について共通理解を図っていく。 ○授業研究会を設定する場合は、子どもの育ちに結びつく授業、単元づくりのあり方や教師の支援の

<p>方 法</p>	<p>仕方を学び、教職員の学び合いの場とする。 ○子どもたちの学びの過程を意識し、日常の授業実践にあたる。教材研究、こどもの実態把握、ICTの効果的な活用を工夫し、学年間や学年部間、教科担任間で連携しながら授業づくりを行う。一人一人が、大切にされているという実感をもつことができるように、子どもの目線に立った言葉かけや対話を重視し、自己有用感や自尊感情を育む働きかけを意識的に行っていく。</p>
<p>研 究 の 計 画</p>	<p>4・5月 昨年度の研究の成果と課題の共有 今年度の研究の方向性、概要の検討 子ども理解の充実に向けた準備 研究全体会（子どもの育ち・支援のあり方についての）</p> <p>6月 子ども理解研修会（講師招聘） 授業研究会の計画</p> <p>7月 研究全体会（育てたい資質・能力について） 授業研究会の提案、調整</p> <p>2学期 研究全体会（めざす子どもの姿、支援のあり方について 予定） 提案授業を検討中</p> <p>12月 研究全体会（子どもの育ち、支援のあり方について 予定） 3学期 1年間のふり返り・次年度へ向けて 育てたい資質・能力の見直しと次年度への改善点の把握と方向性について検討</p>